

感染症科

1. スタッフ体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室とほぼ同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行った。

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科部長、感染制御対策室室長（2016 年 4 月～12 月）
藤本 卓司	総合内科主任部長、感染制御対策室室長（2017 年 1 月～3 月）
中江 吉希	血液内科・感染症科副部長
堀口 雅史	消化器センター外科・感染症科兼務 副部長
丸毛 聡	呼吸器センター内科・感染症科兼務 副部長
加藤 瑞樹	総合内科・感染症科兼務 医員
白田 全弘	呼吸器センター内科・感染症科兼務 レジデント
寺田 祐太	神経内科・感染症科兼務 レジデント
菊池 航紀	総合内科・感染症科兼務 レジデント
四茂野 恵奈	総合内科・感染症科兼務 レジデント
辻本 考平	リウマチ膠原病内科 非常勤

看護師：

高詰 江美	感染管理認定看護師（専従）
堂後 鈴子	感染管理認定看護師（兼任）、看護師長

薬剤師：

上田 覚	感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、薬剤部係長
高橋 有	
山下 涼子	

臨床検査技師：

宇野 将一	臨床検査技師部主任
中塚 由香利	
小林 賢治	

事務：

亀井 愛美	
-------	--

2. 平成 28 年度の院内感染症に関する取り組み

(1) 感染制御対策業務

① 院内感染事例、院内感染発生率に関するサーベイランス等の情報分析・評価

i) サーベイランス体制の強化

- ・薬剤耐性菌サーベイランス：判定基準に従い、薬剤耐性菌及び監視微生物(セラチア・セパシア)の検出状況の把握を行い、必要時、現場介入を行い、接触感染対策の強化を図った。また、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS) には、全入院部門、細菌検査部門、NICU部門で報告を行った。
- ・CLABSI サーベイランス：前年度に引き続き、結果と共に現状の問題点及び改善に向けた提案事項をまとめ、現場へフィードバックを行った。
- ・手術部位感染サーベイランス (SSI)：対象を全外科系診療科に拡大し、術後に発生する手術部位感染 (SSI) データを収集した。次年度は JANIS の SSI 部門へ参画準備に着手するとともに、各科からの報告精度の向上、効果的なフィードバックを検討、実施予定。

ii) 職業感染防止の強化

針刺し等による血液汚染事故報告件数は、27 年度 68 件、28 年度 55 件であった。今後も衛生管理委員会との共催で血液等汚染事故勉強会を定期的に開催する。

② 院内感染防止対策の実施状況の把握・指導

i) 手指衛生回数の推移状況の把握

手指消毒剤請求数および手指衛生回数グラフをリンクナース会、師長会等でフィードバックするとともに、使用促進に向けた啓発を行った。

③ 抗菌薬の適正使用の推進

i) 抗菌薬ラウンド

管理抗菌薬使用患者及び血液培養陽性患者をリストアップし、毎週木曜日に病棟ラウンドを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った (平成 28 年度 2126 件、平成 27 年度 2289 件、平成 26 年度 2772 件)。

ii) 環境ラウンド

院内における感染対策の実施状況を確認し、必要に応じて改善指導を行うことを目的に、2014 年 9 月より環境ラウンドを開始し、定期的に 1 回/週ラウンド行っている。新規の他出報告があった場合は、必要時に該当病棟のラウンドを行い、アウトブレイクの早期発見、予防、拡大防止に努めた。

iii) 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、抗菌薬ラウンドの際に ICT にて検討し、診療支援を行った。

TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬については、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視することで、使用状況を確認した。また、使用方法に疑問があれば抗菌薬化学療法認定薬剤師・感染制御認定薬剤師が相談に応じた。その際に解決できない症例については、抗

菌薬ラウンドでの ICT による検討、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

iv) 広域抗菌薬長期投与者への介入

2015 年 1 月より、カルバペネム系抗菌薬を 15 日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始した（平成 28 年度 2016 年 4 月～2017 年 3 月 49 名、平成 27 年度 55 名）。毎週金曜日の環境ラウンドと併せて取り組んでおり、対象患者数は減少傾向にある。

④ 感染対策マニュアル・改訂

一部改訂を行った。

⑤ メールマガジンの発行

当院スタッフへの感染症対策の周知・情報提供を目的に、以下のテーマでメールマガジンを発行した。また、院内や国内における感染症の流行状況に応じて、臨時で配信を行い、感染予防に努めた。（平成 28 年度は 4 回の発行、参考：平成 27 年度 は合計 14 件）

⑥ 職員研修の実施

表 1 のとおり院内研修会・講演会を開催し、職業感染防止策や手指衛生、感染制御対策について講義を行った。

⑦ 院内感染対策委員会

院内感染対策委員会を月 1 回（計 12 回）定例開催した。

- ・定例報告：耐性菌の動向、カテーテル感染、手術部位感染、新規耐性菌感染患者、血液汚染事故報告、結核報告、抗菌薬の使用状況、病棟別手指衛生状況
- ・報告及び審議事項：感染症対策関連、ラウンド・サーベイランス関連（環境ラウンドの開始）、システム関連（血液培養陽性患者の介入記録テンプレート）、採用薬、届出・申請関連（大阪府新型インフルエンザ等協力医療機関登録）カンファレンス・セミナー関連（合同カンファレンス開催報告、院内研修・セミナー案内）等

⑧ 感染防止対策地域連携医療機関との合同カンファレンス

昨年度から引き続き、感染防止対策加算 1・2 の施設基準要件に沿って、地域連携医療機関との合同カンファレンスを開催した。うち 1 回は、加算 1 施設が中心となり、加算 1・2 合同カンファレンスを開催した（全 7 施設、計 42 名が出席）。いずれも自院の感染対策を客観的に評価し、問題点に目を向ける機会となった。また、今年度より感染防止対策加算連携病院に対して、ラウンドを実施し評価および改善内容の指導を行った。

i) 感染防止対策地域連携加算カンファレンス（平成 28 年 1 月、2 月）

開催場所：平成 28 年 1 月…中津病院、平成 28 年 2 月…当院

カンファレンス内容：各施設の感染対策マニュアル等書類確認および聞き取り、ラウンドおよび評価、講評

感染対策マニュアル、職員教育、サーベイランス、コンサルテーション、検査業務等について一部指摘され、改善へ着手した。

ii) 院内感染防止対策加算カンファレンス（平成 28 年 6 月、9 月）

開催場所：当院、加納総合病院、北大阪病院

カンファレンス内容：耐性菌検出状況（MRSA、MDRP、ESBL）、院内感染対策（手指衛生回数、消費量）、抗菌薬使用状況報告に加え、職種別情報交換の場を確保するとともに、当院 ICT による現場ラウンドおよび評価、講評を行った。

iii) 院内感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス（平成 28 年 12 月）

開催場所：当院

カンファレンス内容：各施設での感染対策の取り組み紹介、結核・インフルエンザに関する意見交換、講義「本邦における感染性心内膜炎の現状～CADRE-IE の結果から～」桜橋渡辺病院 岩倉克臣先生

⑨ 大阪府新型インフルエンザ等協力医療機関

新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 25 年 4 月施行）ならびに大阪府による行動計画策定に基づき、大阪府より新型インフルエンザ等協力医療機関へ連絡先登録を行った。前回の新型インフルエンザ流行時の体制を強化し、受け入れ態勢について再度整備に着手予定。

(2) 感染症科業務

① 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日

血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、場合によっては介入した（H28（2016）年度 603 件、H27（2015）年度 232 件）。

② 感染症症例カンファレンス 木曜日

毎週症例検討会を行い、問題があれば担当医師に直接介入をおこなった。（検討症例数：平成 28 年度 2126 件、平成 27 年度 2289 件、平成 26 年度 2772 件）。

③ 感染症診療コンサルテーション 随時

主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、延べ 127863 件のコンサルテーション対応を行った。

④ B 型肝炎防止プロジェクト 月 1 回

前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に延べ 49665030 件の検査勧告メールを配信した。

対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド（中等度以上長期にわたる症例）投与患者のうち、HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体検査が未実施の患者

⑤ 入院中 TB アラート 月 1 回

長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医へレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告した。

⑥ 梅毒アラート 月 1 回

梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。

⑦ 感染症専門医 年数回

日本感染症学会認定感染症専門医取得のため、受験予定の医師 3 名（消化器外科山本健人、総合内科寺田教彦、菊池航紀）に対して、2016 年度末までに症例検討と指導及び文書作成を行った。

3. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

(1) 研究

- 保健活動による積極的水痘予防接種勧奨の経済的影響について(羽田 敦子)
- ワクチンによる糖尿病患者における水痘帯状疱疹ウイルス特異的免疫反応の検討 (文部科学省 科学研究費補助金事業) (羽田 敦子、糖尿病内分泌内科 越山 裕行、浜本 芳之、本庶 祥子、河崎 祐貴子)
- 基礎疾患を有する高齢のインフルエンザ患者に対するペラミビルの有効性と安全性についての検討 (呼吸器内科 高松 和史、呼吸器内科 福井 基成、小児科 羽田 敦子)
- 当院の ESBL 臨床分離株の検討 (臨床検査部 宇野 将一、中塚 由香利、小児科 羽田 敦子)
- プレセプシン(sCD14 subtype)の感染症マーカーとしての有用性の検討 (リウマチ膠原病内科 辻本 考平)
- タゾバクタム/ピペラシリン, メロペネムおよびセフトリアキソンの排便回数に与える影響の比較検討 (感染症科 辻本 考平、羽田敦子)
- 血液疾患症例における菌血症に関する研究 (京都大学 大学院医学研究科 研究科 臨床病態検査学 野口太郎、感染症科 中江吉希、羽田敦子)

(2) 論文

① Original Article

○Tsujiimoto K, Hata A, Fujita M, Hatachi S, Yagita M.

Presepsin and procalcitonin as biomarkers of systemic bacterial infection in patients with rheumatoid arthritis.

Int J Rheum Dis. 2016 Jun 13.

○Hata A, Inoue F, Hamamoto Y, Yamasaki M, Fujikawa J, Kawahara H, Kawasaki Y, Honjo S, Koshiyama H, Moriishi E, Mori Y, Ohkubo T.

Efficacy and safety of live varicella zoster vaccine in diabetes: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.

Diabet Med. 2016 Aug;33(8):1094-101.

○Takamatsu K, Marumo S, Fukui M, Hata A.

"Safety and efficacy of anti-influenza drugs, intravenous peramivir against influenza virus infection in elderly patients with underlying disease"

Journal of Microbiology, Immunology and Infection, *in press*

②Case report

○Iwasaki S, Motokura K, Honda Y, Mikami M, Hata D, Hata A.

Vaccine-strain herpes zoster found in the trigeminal nerve area in a healthy child: A case report.

J Clin Virol. 2016 Dec;85:44-47.

(3) 著書

羽田敦子 (分担執筆)

インフルエンザ診療ガイド 2016-2017

2016年10月8日 発行、日本医事新報社

羽田敦子

「Q5 卵アレルギーがある場合のワクチン接種はどのようにすべきですか？」

(4) 学会発表

- Tsujimoto K.
第60回日本リウマチ学会総会・学術集会 International Concurrent Workshop 2016年4月・横浜 口頭発表
"Presepsin(soluble CD14 subtype) and procalcitoninas biomarkers of systemic bacterial infection in patients with rheumatoid arthritis"
- 辻本考平
第60回日本リウマチ学会総会・学術集会 International Concurrent Workshop 2016年4月・横浜 口頭発表
"Presepsin(sCD14 subtype) Concentration Is Elevated and Reflects Disease Activity in Systemic Lupus Erythematosus Patients"
- 辻本考平
第90回日本感染症学会学術講演会 口頭発表
"タゾバクタム/ピペラシリン，メロペネムおよびセフトリアキソンの排便回数に与える影響の比較検討"
2016年4月16日・仙台
- 丸毛 聡、加藤瑞樹、中塚由香利、宇野将一、羽田敦子
第90回日本感染症学会総会・学術講演会一般演題
M. abscessus による腹膜透析カテーテル感染症の2例
2016年4月15日 仙台市
- 羽田敦子、石岡大成、大石和徳
第90回日本感染症学会総会・学術講演会一般演題
高齢糖尿病患者における水痘帯状疱疹ワクチンランダム化二重盲検試験後の同時接種 23 価肺炎球菌多 糖体ワクチン免疫応答解析
2016年4月16日 仙台市
- 加藤健太郎、水本洋、佐々木宏太、三上貴司、本倉浩嗣、高折徹、菅仁美、小泉正人、羽田敦子、秦大資
第29回北野小児科学術講演会
同一大腸菌による細菌性髄膜炎を反復した早産児の一例
2016年10月1日 大阪

- 三上貴司、羽田敦子、佐々木宏太、緒方瑛人、田中邦昭、阿部純也、秦大資
第 29 回北野小児科学術講演会
難治性中耳炎、頸部リンパ節腫脹を契機に発見された小脳結核腫を伴う播種性結核の 2 歳女児の 1 例
2016 年 10 月 1 日 大阪
- 羽田敦子、榊原敦子、奥野壽臣
第 20 回日本ワクチン学会学術集会
健康成人における水痘帯状疱疹ワクチンの細胞性免疫能評価
2016 年 10 月 22 日 東京
- 加藤健太郎、羽田敦子、吉岡孝和、秦大資
第 48 回日本小児感染症学会総会・学術集会
非ワクチン関連血清型株による肺炎球菌菌血症を繰り返した一例
2016 年 11 月 19 日 岡山
- 加藤瑞樹
尿管皮膚瘻患者におけるカンジダ性カテーテル関連尿路感染症に対してアンホテリシン B による局所洗浄が著効した一例
第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 2016 年 11 月 24 日 沖縄
- 白田全弘
マクロライド系抗菌薬少量長期投与で感染制御困難な重症気管支拡張症に対しドキシサイクリン長期投与併用が奏功した 2 例
第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 2016 年 11 月 24 日 沖縄
- 上田 覚 1) 石坂 敏彦 2) 眞継 賢一 3) 安井 友佳子 4) 行本 拓史 5) 山田智之 6) 伊藤 千恵 7) 関 雅文 8)
1) 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 薬剤部
2) 堺市立総合医療センター 薬剤・技術局
3) 関西電力病院 薬剤部
4) 堺市立総合医療センター 薬剤科
5) 山本第三病院 薬剤部
6) 大阪医科大学付属病院 薬剤部
7) 大阪府立急性期・総合医療センター 薬局
8) 東北医科薬科大学病院 感染症内科
第 32 回日本環境感染学会 2017 年 2 月 24 日 神戸市
若手薬剤師を対象とした抗菌化学療法研修会（大阪抗菌薬倶楽部）の教育効果についての検討
2017 年 2 月 24 日 神戸市
- 花見洋太郎、熊倉啓、米田徳子、緒方英人、荒木亮祐、宮本尚幸、高折徹、羽田敦子、秦大資
第 30 回近畿小児科学会
急速進行の重度の弛緩性麻痺で複数のウイルス感染による脊髄炎と末梢神経障害合併が示唆された 1 歳男児例
2017 年 3 月 12 日 大阪

(5) 院外活動

講演

- 上田 覚
大阪抗菌薬倶楽部 平成 28 年度第 1 回研究会
発熱性好中球減少症
2016 年 5 月 7 日 大阪市
- 上田 覚
平成 28 年度中国四国グループ内院内感染対策研修会
薬剤師から見た抗菌薬適正使用
2016 年 10 月 28 日 岡山市
- ICD 認定更新用講習・教育企画、外部講師招聘
第 14 回北大阪感染症研究会
2017 年 1 月 27 日
【一般演題】 座長 羽田 敦子
『当院における VRE のアウトブレイクと抗菌薬適正使用について』
演者：社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院 臨床教育部部長 安井 良則 先生
【特別講演】 座長：社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院血液内科 部長 太田 健介 先生
『院内感染対策と真菌感染の Up-To-Date (仮)』
演者：大阪市立大学大学院 医学研究科 臨床感染制御学 教授 掛屋 弘 先生

4. 今後の課題

1. 感染制御対策室内の AST (Antimicrobial Stewardship Team) としての業務
 - ① 抗菌薬の適正使用
 1. ICT ラウンドによる抗菌剤の適正使用についての相談・監視の継続
 2. 薬剤耐性菌の傾向分析とその啓発
 - ② 感染症治療の充実
 1. 感染症患者のコンサルテーションと診療支援
 2. 当院のエビデンスに基づいたマニュアルの作成
 3. 定期的な院内感染症治療マニュアルの更新
 - ③ 職員教育：実効力のある講習会の定期的な開催および達成度の評価
2. 感染症治療のコンサルテーションの体制整備
 - ① 耐性菌治療
 - ② SSI 治療介入
3. 院外発表（学会発表、論文発表）などでの活動内容を発表
4. 研究活動（単独研究及び院外施設との共同研究）
5. 構成員及び院内職員の感染症治療、感染制御に対する資格取得

表1. 平成28年度に開催した医療関連感染管理/職員研修・教育実施

研修計画					実施記録	
月	日	研修内容	講師	対象者	演題	参加者数
4月	1(金)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室 衛生管理委員会	新入職医研 修医		20
	2(土)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職事務 コメディカル		25
	7(木)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護 師		131
5月		新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護 師		1
6月	14(火)	感染対策講習会	感染制御対策室	全職員	その結核感染対策大丈夫？ N95 マスク装着練習	86
	15(水)					86
	17(金)					103
7月		新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護 師 新入職看護 助手		3 1
	11(月)	血液培養勉強会	感染制御対策室	看護師	血液培養採取時のポイント(演習を含む)	36
	15(金)					35
	29(金)	血液培養勉強会	日本ペクトン 感染制御対策室	全職員	敗血症の新しい診断基準と血液培養 カテーテル関連感染症診療の課題と対策	14
8月		新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護 助手		2

	5(金)	血液培養勉強会	感染制御対策室	看護師	血液培養採取時のポイント(演習を含む)	34
	12(金)					37
9月		新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護師		1
	16(金)	血液培養勉強会	日本ペクトン 感染制御対策室	全職員	敗血症の新しい診断基準と血液培養 カテーテル関連感染症診療の課題と対策	20
10月		新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護 助手		3
	11(火)	感染管理に関する勉強会	感染制御対策室	SMC	感染管理	7
	18(火)	感染制御講習会	感染制御対策室	全職員	災害時の感染対策見直そう。ノロウイルスなどの接 触感染対策	92
	19(水)					59
	20(木)					67
	31(月)	血液汚染事故に関する講演会	衛生管理委員会 感染制御対策室	全職員	血液汚染事故について 血液汚染事故の現状と対策	77